

国立国際美術館ワークショップ

# カタルとツクルの

○ □ ▶ ○ □ ▶ ○ □ ▶

2015年2月7日(土)・2月8日(日)

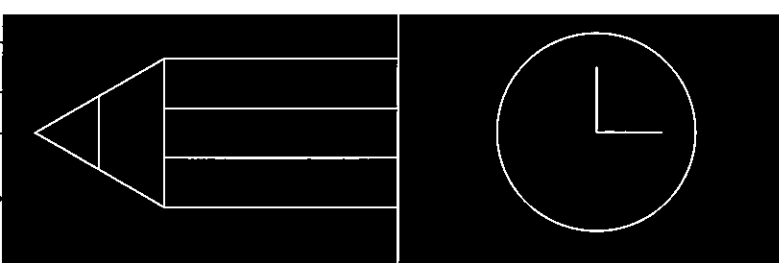
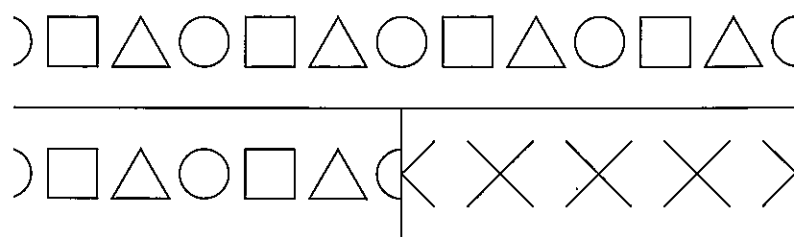
○ □ ▶ ○ □ ▶ ○ □ ▶

# ツクルの

映像ワークショップ

両日ともに10:30 ~ 16:30

国立国際美術館  
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA



# 国立国際美術館ワークショップ カタールと



# ツクルの 映像ワークショップ

人類の歴史に、フェナキストスコープという、動く絵のおもちゃが生まれてから200年弱。活動写真が登場してから、約100年。今や私たちは「映像」というメディアから逃れられない社会に暮らしていると言えます。

ここ数十年、映像は専門家が知識を駆使して作るのが常識でした。なぜなら映像で自在に表現するためには直感とセンスだけではどうにもならない部分があり、たとえば「編集」がどんな効果を持つのか?といった専門知識を知っている必要があったからです。

ところが、最近ではちょっと事情も変わってきています。カメラが小さくなり、バッテリーが長時間駆動するようになって、これまでの専門家の常識とはまったく違うような映像を専門家ではない私たちにも作れるようになってきました。

過去の専門家からは「そんなものは映像じゃない!」って言われるようなものかもしれませんが、それでもやっぱり動く絵は動く絵なのです。

今回のワークショップでは、2日間に分けて映像に近づいてみたいと思います。1日目は「映像をカタール」。2日目は「映像をツクル」。どちらかだけに参加することもできますが、できれば両方に参加することをお勧めします。

これまでの常識にとらわれる必要はありません。柔軟な発想で映像と遊んでみましょう。

会田大也

会田大也 (あいだ・だいや)

1976年東京生まれ。山口市にあるメディアセンター：山口情報芸術センター [YCAM] 開館当初の2003年より、教育普及担当としてワークショップや地域プログラムを11年間担当。メディアについて知る／表現するためのワークショップを多数デザインし、一連のワークショップは第6回キッズデザイン賞最優秀賞等を受賞。また、自由に遊べる新しいメディア公園「コロガル公園」を企画し、山口や札幌で展開。同シリーズは第17回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品やグッドデザイン賞2014を受賞。現在、東京大学大学院特任助教。

- 【開催日】2015年2月7日(土)・2月8日(日)
- 【時間】両日ともに10:30～16:30
- 【場所】国立国際美術館 地下1階講堂
- 【講師】会田大也(ミュージアムエデュケーター／東京大学GCL育成プログラム特任助教)
- 【対象】小学5年生以上ならどなたでも
- 【定員】各日12名(応募者多数の場合は抽選)
- 【参加費】無料・要事前申し込み
- 【持ちもの】スマートフォン(2日目のみ)

- 【お知らせ・ご注意】
- ・2日目は、スマートフォンを映像機器として利用するのでご持参ください。その際、データ通信を行う可能性があります。スマートフォンの貸し出しを希望される場合には、申し込みの往復ハガキに貸し出しを希望することを明記してください。
  - ・ワークショップの活動風景は静止画、動画ともに記録撮影されます。
  - また、その一部が後日当館による広報活動および講師の活動の一環として公開されることがあります。ご了承の上、ワークショップにお申し込みください。

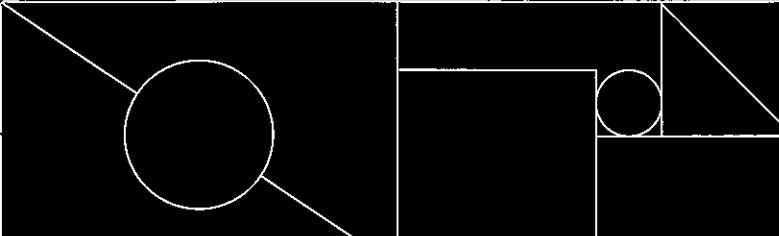
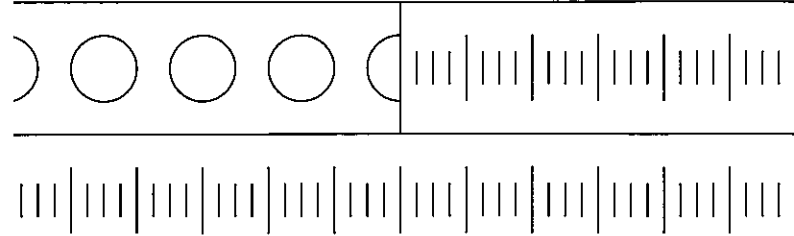
- 【申し込み方法】
- 往復ハガキで下記の宛先までお申し込みください。ハガキには、
- ①ワークショップ名
  - ②参加希望日(1/27のみ参加、「2/8のみ参加」、「両日参加」のいずれかを明記)
  - ③氏名(ふりがな)
  - ④郵便番号・住所
  - ⑤電話番号
  - ⑥学年あるいは年齢
  - ⑦スマートフォンの貸し出し希望の有無(「希望する」、「希望しない」のいずれかを明記)
  - ⑧今回の情報をどのように得られたかを記入ください。
- ・往復ハガキの返信面には必ずご住所とお名前をご記入ください。
  - ・ご家族、ご友人など、グループでの参加希望は、必ず一枚の往復ハガキでお申し込みください。その際、参加者全員の必要事項をご記入ください。
  - ・応募者多数の場合は抽選の上、結果を後日お知らせします。
  - ※切り後でも、定員に達するまで受け付けていますので、お問い合わせください。

【切り】  
2015年1月28日(水)必着

【宛先】  
〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55  
国立国際美術館ワークショップ係

**国立国際美術館**  
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55  
お問い合わせ：06-6447-4680(代)  
<http://www.nmao.go.jp/>



## ワークショップ「カタルとツクルの映像ワークショップ」

2015年2月7日（土）～2月8日（日）両日ともに10:30～16:30

講師：会田大也（ミュージアムエデュケーター/東京大学 GCL 育成プログラム特任助教）

対象：小学5年生以上ならどなたでも

定員：各日12名（応募者多数の場合は抽選）

参加費：無料・要事前申し込み

持ちもの：スマートフォン（2日目のみ）

### ～講師からのメッセージ～

人類の歴史に、フェナキストスコープという、動く絵のおもちゃが生まれてから200年弱。「活動写真」が登場してから、約100年。今や私たちは「映像」というメディアから逃れられない社会に暮らしていると言えます。

ここ数十年、映像は専門家が知識を駆使して作るのが常識でした。なぜなら映像で自在に表現するためには直感とセンスだけではどうにもならない部分があり、たとえば「編集」がどんな効果を持つのか？といった専門知識を知っている必要があったからです。

ところが、最近ではちょっと事情も変わってきています。カメラが小さくなり、バッテリーが長時間駆動するようになって、これまでの専門家の常識とはまったく違うような映像を専門家ではない私たちにも作れるようになってきました。

過去の専門家からは「そんなものは映像じゃない！」って言われるようなものかもしれませんが、それでもやっぱり動く絵は動く絵なのです。

今回のワークショップでは、2日間に分けて映像に近づいてみたいと思います。1日目は「映像をカタル」。2日目は「映像をツクル」。どちらかだけに参加することもできますが、できれば両方に参加することをお勧めします。

これまでの常識にとらわれる必要はありません。柔軟な発想で映像と遊んでみましょう。

### 会田大也（あいだ・だいや）

1976年東京生まれ。山口市にあるメディアセンター：山口情報芸術センター [YCAM] 開館当初の2003年より、教育普及担当としてワークショップや地域プログラムを11年間担当。メディアについて知る/表現するためのワークショップを多数デザインし、一連のワークショップは第6回キッズデザイン賞最優秀賞等を受賞。また、自由に遊べる新しいメディア公園「コロガル公園」を企画し、山口や札幌で展開。同シリーズは第17回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品やグッドデザイン賞2014を受賞。現在、東京大学大学院特任助教。

### お知らせ/ご注意

・2日目は、スマートフォンを映像機器として利用するのでご持参ください。その際、データ通信を行う可能性があります。スマートフォンの貸し出しを希望される場合には、申し込みの往復ハガキに貸し出しを希望することを明記してください。

・ワークショップの活動風景は静止画、動画ともに記録撮影されます。また、その一部が後日当館による広報活動および講師の活動の一環として公開されることがあります。ご了承の上、ワークショップにお申し込みください。

### 申し込み方法

往復ハガキで下記の宛先までお申し込みください。

ハガキには、

- 1) ワークショップ名
- 2) 参加希望日（「2/7のみ参加」、「2/8のみ参加」、「両日参加」のいずれかを明記）
- 3) 氏名（ふりがな）
- 4) 郵便番号・住所
- 5) 電話番号
- 6) 学年あるいは年齢
- 7) スマートフォンの貸し出し希望の有無（「希望する」、「希望しない」のいずれかを明記）
- 8) 今回の情報をどのように得られたか

をご記入ください。

\* 往復ハガキの返信面には必ずご住所とお名前をご記入ください。

\* ご家族、ご友人など、グループでの参加希望は、必ず一枚の往復ハガキでお申し込みください。その際、参加者全員の必要事項をご記入ください。

\* 応募者多数の場合は抽選の上、結果を後日お知らせします。

\* 〆切り後でも、定員に達するまで受け付けていますので、お問い合わせください。

**〆切り：2015年1月28日（水）必着**

**宛 先：〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55 国立国際美術館ワークショップ係**